

# 北マリアナ諸島（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [ロサンゼルス日本文化センター](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
1	1	30	2	2	210	0	0	0	0	0	0	3	3	240

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

北マリアナ連邦はサイパン、ロタ、テナンその他11の島からなる。17世紀の半ばにスペインに支配され、1899年ドイツに売却された。その後、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけては日本の統治下におかれ、戦後アメリカ合衆国の国際連合信託統治領となった。さらに1975年から北マリアナ諸島コモンウェルス（CNMI）として米国自治領となった後、2009年に連邦化され、アメリカ合衆国に組み入れられた。

北マリアナを含む南洋群島（現ミクロネシア連邦及びパラオも含まれる）における日本語教育は1914年の日本軍の占領とほぼ同時に始まったといわれる。時代によって多少異なるが、優秀な児童は概ね3年から5年の期間で日本への留学も可能であった。そのため当時日本語教育を受けた高齢者の中には今でもかなり日本語が話せる人がいる。

1937年当時のサイパン在住の日本人は、現地人約4千人に対し約2万人であったと言われ、日本人町が栄えていたことがわかる。

第2次世界大戦後の教育機関における日本語教育は北マリアナ最大のマリアナ高校（創立1969年、現学生数1,200人）で始まったと思われるが、いつからどのようにして始まったのか正確な資料は残っていない。北マリアナ短期大学（NMC）では、1981年学校設立と同時に Liberal Arts の学生を対象とした日本語コース（JA100 Conversational Japanese）が開設された。その後マリアナ観光局（MVA）、日本のシルバーボランティア等の協力を得て、徐々にコースを増やし、以前はビジネス・観光学科に所属していたが、1999年以降は言語・人文学科所属となった。

## 背景

日本統治時代の日本人のチャモロ人に対する対応は友好的で公平であったといわれ、そのため対日感情は一般的に良好である。日本人に対する印象も「勤勉」「正直」などで「日本から学ぼう」という思いが見受けられる。

## 特徴

北マリアナ連邦の主要産業は観光であり、かつては日本からの投資や観光客も多かった為毎年多くの学校関係者や市民団体が日本から訪れ、交流会等も頻繁に行われていた時期もあった。観光業や接客業に携わっている人々の中には日本語ができる人も多く、日本語ができると就職にも有利と考えられていた。しかしながら、2005年の日系航空会社の日本-サイパン便の廃止や、2018年のデルタ航空による日本からの唯一の直行便の撤退を受けて、北マリアナツーリズムは日本人観光客の減少を余儀なくされ、日本語教育を取り巻く環境にも影響を及ぼした。2019年からは日本への直行便が復活したことにより、日本人観光客が再び増加に転じていくと思われたが、2020年初頭からの新型コロナウイルスの影響で日系、韓国系、中国系、アメリカ系の全航空会社、全フライトは運航を停止し、観光産業は甚大な影響を受けた。

## 最新動向

2020年9月には学校における日本語教育も再開できることとなった。ほとんどの学校でオンライン授業が導入され、その後ハイブリッド授業へ移行した。2024年以降は対面の平常授業を行っている。

## 教育段階別の状況

### 初等教育

私立グレース・クリスチャン・アカデミーで2023年度半ばより日本語クラスが設けられ、現在は1年生から5年生向けに開講している。

### 中等教育

公立ではカグマン高校、マリアナ高校、私立ではマウントカーメル高校、グレース・クリスチャン・アカデミーで日本語教育が行われている。

### 高等教育

現在、日本語クラスは無く、チャモロ語、韓国語、中国語のクラスが提供されている。

## 学校教育以外

コロナ禍の後、日本からの定期直行便が不確定な影響により、観光産業の回復は見られず、日本からの観光客はほぼ激減したままなので、学校教育以外での教育は風前の灯である。

### 3.教育制度と外国語教育

#### 教育制度

##### 教育制度

6-2-4 制。学年の呼び名は6年生以降もずっと数を足して行き、高校3年生は12年生と言う。

1年生～6年生：小学校      7年生～8年生：中学校      9年生～12年生：高校

義務教育は高校までとなっている。卒業後にコミュニティーカレッジ（2年以上）や大学（4年以上）へ進学する者もいる。

##### 教育行政

教育省の下に PSS（Public School System）が公立校（小学校から高校）を管轄している。私立校に関しては教会付属が主で独自の運営をしている。

#### 言語事情

公用語は英語で、学校教育も英語で行われているが、現地の人々の大半はチャモロ語かキャロリニアン語を各家庭もしくは公の場で話している。その他、コミュニティーによっては中国語、日本語、韓国語、タガログ語、タイ語、パラオ語、ヤップ語、ポナペ語、トラック語等を話す家庭もある。

#### 外国語教育

公立高校では卒業のために外国語1単位が必要である。1コマが75～80分で、半年ずつの2学期、ブロック制で履修している。

私立の外国語教育は、学校や校長の方針によって状況は異なり、採用される教師の資格は公立学校ほど厳しく問われていない。

#### 外国語の中での日本語の人気

スペインの支配が2世紀半続き、現地のチャモロ人の中にはスペイン語の姓を持つ人が大変多い。日本語以外の外国語を教える学校もあるが、日本語を選択する学生の割合が多い。

#### 大学入試での日本語の扱い

北マリアナ短期大学(NMC)にはいわゆる入学試験はない。学生は入学するとき英語と数学のプレースメント、学力検査テストだけ受ければよく、日本語を含めた外国語の試験はない。

### 4.学習環境

## 教材

### 初等教育

日本語教育の実施は一部の学校で行われている。『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I』

### 中等教育

学校により異なる。『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I II』国際日本語普及協会（講談社 USA）、『Genki』（The Japan Times）、『Japanese from Zero』などが使用されている。

### 高等教育

『にほんご ステップ 1 & 2』Yoko Fujioka-Kern (Northern Marianas College)

### 学校教育以外

日本語教育の実施は確認されていない。

## IT・視聴覚機材

コンピューター、インターネット、iPad 等を授業に取り入れる事を推進している。Blackboard、College Board AP Classroom、Edmodo、MOODLE、Nearpod を使用している学校もある。

## 5.教師

### 資格要件

#### 初等教育

私立の学校のみで行われている為、各学校の基準に委ねられている。

#### 中等教育

私立学校では各学校の基準に委ねられている。公立学校では学士号を取得していることが条件（専攻は問わない）。公立高校では、学士号に加えて、教師としての能力テスト Praxis 1（一般教養）と Praxis 2（専門分野の知識）の合格と、マリアナ大学での幾つかのコース修了も条件となっている。

#### 高等教育

「修士号以上、高等教育機関での日本語教育経験 5 年以上の者」が資格要件とされている。

### 学校教育以外

日本語教育の実施は確認されていない。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

現在、学校制度において日本語教育に携わっている教師は日本人 6 名

## 教師研修

この地域内での教師研修はない。研修を受ける為には日本、ハワイ、またはアメリカ本土まで行く必要がある。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

### 国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

### その他からの派遣

日本語教育の派遣は行われていない。

## 8.シラバス・ガイドライン

日本語に関しては統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

## 9.評価・試験

共通の評価基準や試験はないが、AP テストは年に 1 回実施している。

## 10.日本語教育略史

1969 年

マリアナ高校で日本語クラス開設。

1981 年

北マリアナ短期大学で Liberal Arts の学生を対象とした日本語クラス開設。

2002 年

公立校のサザン高校、カグマン高校を新設、同時に日本語クラス

開設。

**2008年**

私立マウントカーメル小学校で日本語クラス開設。

**2011年**

私立マウントカーメル小学校で日本語クラスが閉講となる。

**2012年**

私立マウントカーメル高校で日本語クラスが開講される。

**2013年**

PSSによりオンラインの日本語クラス開設される。

**2016年**

マリアナ高校、マリアナバプティストアカデミーの日本語クラスが教師不在の為に休止。

**2017年**

マリアナ高校、マリアナバプティストアカデミーの日本語クラスが開講再開。

北マリアナ短期大学の日本語クラスは1学期のみ開講。その後、一時的に閉講。

私立マウントカーメル小学校で日本語クラス開講となる。

**2018年**

マリアナバプティストアカデミー閉校。

北マリアナ短期大学日本語クラス再開。

**2020年**

新型コロナウイルス COVID19の影響により 全学校が3月中旬にて休校となる。新年度は例年とは異なる形であるが 例年並みの9月より再開される。

**2022年**

新型コロナウイルス COVID19の影響が下火になり、100%オンライン授業から正常授業に戻りつつある。

対面の平常授業に戻る。

**2024年**

私立マウントカーメルとグレイスクリスチャンで小学部の日本語クラスが開講される。

**2026年**

私立マウントカーメル小学部及び北マリアナ大学で日本語クラスが閉鎖される

## 情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。

なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

**Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp**

(メールを送る際は、**全角@マーク**を**半角@マーク**に変更してください)